

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 一般 - 33

学校名・団体名	高岡市立万葉小学校
HPアドレス	<a href="http://schit.net/takaoka/manyou/">http://schit.net/takaoka/manyou/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさとの未来を担う子供の育成 万葉型ESD の推進
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、昭和54年、それぞれに長い歴史をもつ守山小学校と二上小学校とが一つに統合されて誕生し、来年度40周年を迎える。「統合40周年」を一つの節目として、昨年度から3年計画で、総合的な学習の時間を核にESDを推進し、ふるさとの未来を担う子供の育成を目指している。東日本大震災、熊本大地震等の度重なる自然災害は、私たちに地域の防災、福祉、環境保護という喫緊の課題を再認識させた。ふるさと万葉の過去、現在をしっかりと受け止め、ふるさとの未来をよりよく創り上げようとする子供をどう育てたらいいのか、常に保護者や地域住民に問い続けながら実践を進める。</p>	

ふるさとの未来を担う子供の育成 ～万葉型ESDの推進～

(1) 活動期間 平成29年4月～平成30年3月

(2) 活動内容

① 第3学年「見つけよう！伝えよう！わたしたちのまち万葉 ～ぼく・わたしは万葉再発見隊～」

1学期は「万葉のじまん」を見付ける地域探検を行った。その際、これまで学校すぐそばにありながら教材化されていなかった二上山を取り上げ、その自然、文化、伝統に詳しい外部講師を招聘し、一緒に登山をしたり、麓の二上射水神社の総代から話を聞いたりした。地域の伝統・文化の継承や活性化に尽力する人々と交流する機会をもつことで、地域の方々の思いや願いを知り、一人一人が「万葉のじまん」を決定していった。2学期は、市内の博労小学校の3年生と交流して、各校区のじまんを伝え合う活動を行った。また、10月の学習発表会に「万葉のじまん」をステージ発表して、学習の成果を家族や地域の人に伝えた。さらに、11月には、万葉植物園において地域の方々とかたかごの球根を植える活動を行った。取組に感動した地域の方々から励ましの手紙や直接来校してのメッセージが届いた。

② 第4学年「チャレンジ！自分にできること ～あったかハートを広げよう～」

本校の近隣には、2つの老人福祉施設がある。1学期は、2つの施設に出かけ、相手も自分もあったかハートになるようにと交流活動を続けた。その際、校区の社会福祉協議会の方や福祉施設の職員から話を聞く場を設定し、高齢者への接し方を学び、次の活動にと生かしていった。2学期には、校区の自然の恵みを生かし、草木染めにチャレンジし、手作りのマフラーをプレゼントした。その際、他教科との関連を図り、自作の俳句・短歌・詩や合唱もプレゼントした。継続的な取組のお礼として、子供たちは施設のもちつき大会に招待され、さらに高齢者との交流を深めた。

③ 第5学年「われら万葉守り隊 ～自分たちにできること～」

今年の3月、本校の敷地内に防災無線が設置された。子供たちは、何のために防災無線が立てられたのかと疑問に思い、それを契機に自分たちの住む校区の防災事情に関心を向けた。1学期は、本校区で想定される自然災害や自分の町内の災害に対する備えについて調べ、地域の一員として自分たちにも何かできることはないか考えた。夏季休業中も、自分の町内の人に直接働きかけ、防災意識を高めようと活動した。2学期は、地域の高齢者や隣接する保育園の園児にも防災意識をもってもらうため、保育園との合同避難訓練をしたり、敬老会にオリジナルの防災カレンダーを配ったりして、防災意識の高揚に努めた。また、11月には、県土木課の協力の下、新設された砂防ダムを見学したり、市危機管理室主催の二上地区総合防災訓練に参加したりした。子供たちの「万葉校区を守り隊」という思いは地域の方々の心を動かし、励ましの電話や手紙が届いた。また、1年間の学習成果を生かして防災集会を開き、保護者に自分たちの頑張りを伝えた。

④ 第6学年「ふるさと歴史探険 ～ふるさとの「今」を生きる～」

「万葉」という校名が表すように、奈良時代には近くに国府が置かれ古くから文化が栄えた地域である。今年度は、大伴家持生誕1300年を迎え、本市でも記念事業が数多く行われた。この機を捉えて、本市の歴史・文化に親しみ、その継承に尽力する人々と交流をもった。1学期は、市内の歴史探険に出かけ、先人や地域の人々の思いや願いに触れた。2学期は、1学期の学びを基に、他市の6年生に本市の歴史や文化の魅力をアピールする活動を計画した。

⑤ ジュニア・ボランティア活動への自主的な参加

本校は、長年、ジュニア福祉活動を続けている。少子高齢化が進む中、福祉活動を通して多様な人と関わりをもつことは、子供たちの将来にとって意味ある体験である。6年生は、冬季休業中に、社会福祉委員や消防団と共に独居老人宅を訪問し弁当を配ったり、防火を呼びかけたりした。また、5年生は、地域の敬老会の受付や誘導を手伝い、直接高齢者と触れ合う体験をした。

⑥ 「万葉」の校名にちなんだ短歌づくり

校区に大伴家持ゆかりの二上山があり、市内に数多くの短歌が残されている。本校では、昨年度より3年生以上が短歌づくりに取り組んでいる。富山県歌人連盟の協力の下、短歌の創作活動を行い、「万葉っ子短歌集」を作成し配布した。また、外部の短歌コンクールにおいて複数の児童が入賞した。

(3) 成果と課題

ESDを推進し、地域を学びの場と捉え、子供たちが地域に出かけることで、地域そのものが活性化していくことを実感できた。教員の異動等でメンバーが替わっても、ESDの取組を継続していくために、地域の教育資源のリストを作成し、誰でもすぐに活用できるように準備しておく必要がある。また、総合以外の教科・領域においても、ESDの実践を進めていく必要がある。

(4) 児童への効果

地域に出かけ、地域の事象（人、もの、こと）と直接関わり、つながりをもつことで、それぞれの発達の段階で地域の一員としての自覚を高めることができた。本校にとって、地域は一番の学校の大応援団である。そのことを子供自身が感じ取っている。